

29年9月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 9月1日～ 29年9月11日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/9月	10月	11月
入荷動向	国産材製材品	△ 7.1	△ 14.3	△ 14.3
	外材製材品	14.3	0.0	0.0
	その他	0.0	0.0	0.0
販売動向	国産材製材品	14.3	21.4	0.0
	外材製材品	△ 7.1	0.0	△ 14.3
	その他	△ 20.0	△ 10.0	△ 20.0
在庫動向	国産材製材品	△ 14.3	△ 7.1	△ 14.3
	外材製材品	14.3	0.0	0.0
	その他	0.0	0.0	0.0

・国産材製材品の入荷動向は、3カ月連続減少。外材製材品は9月の増加から10月、11月は横ばいに。その他は3カ月連続横ばい推移。

・国産材製材品の販売動向は、9月、10月の増加から11月は横ばいに。外材製材品は9月の減少から10月は横ばい、11月は再び減少に。その他は3カ月連続減少。

・国産材製材品の在庫動向は3カ月連続減少。外材製材品は9月の増加から10月、11月は横ばいに。その他は3カ月連続横ばい推移。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		29/9月	10月	11月
スギ	柱角 KD10.5×3	7.1	14.3	14.3
	柱角 KD12×3	7.1	14.3	14.3
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	0.0	0.0	0.0
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	0.0	0.0	0.0
	加工板	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	14.3	21.4	14.3
	柱角 KD12×3	14.3	14.3	7.1
	土台角 10.5×4	28.6	28.6	21.4
	土台角 12×4	21.4	21.4	14.3
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	28.6	14.3	7.1	
米マツ割物	28.6	7.1	7.1	
北洋エゾマツタルキ	0.0	0.0	0.0	
北洋アカマツタルキ	0.0	0.0	0.0	

・国産材製材品の価格動向は、スギ柱角KD10.5×3、KD12×3は強含み。その他は保合い。ヒノキは柱角KD・土台角とも強含み。通し柱は保合い。カラマツ土台角は保合い。

・外材製材品は米マツ平角・割物は強含み。北洋エゾマツ、アカマツタルキは保合い。

モニターからのコメント

(荷動き)

・8月に減少している分9月は若干増加。10月は創立記念市があるため多少は販売増加の見込み。10月の記念市に向け若干は在庫増加の見込み（関東）。

・入荷動向はスギ、ヒノキとも柱・土台中心に品不足、米材は産地の出材不足、北洋材は需要不足のため入荷はやや減少。販売動向は国産材、外材、その他ともに需要不足。在庫動向は入荷状況が悪い分在庫が減っている状況でやや減少（中部）。

・10月は当市場のイベントのため、各浜問屋は在庫を増やし、販売も増加するものと思われる（中部）。

・ヒノキKD土台角不足 外材は他社との競争で販売量が減少（大阪）

(価格動向)

・スギ柱角（KD10.5cm）60,000円/m³、（KD12.0cm）60,000円/m³、スギ桁角（東北材グリーンラフ）40,000円/m³、母屋角（東北材）（二等）30,000円/m³、スギタルキ（東北材）45,000円/m³、スギ間柱 特（KD）60,000円/m³、スギ加工板（グリーン材）東2,800円、（KD）東4,800円、スギヌキ（東北）40,000円/m³、秋田材50,000円/m³ スギ平割（プレーナー）45,000円/m³、同（ラフ）

43,000/m³、ヒノキ柱角（KD）・土台角10.5cm、12.0cm 80,000円/m³、米マツ平角 KD 65,000円/m³、米マツ割物AD65,000円/m³、北洋アカマツタルキ（アSEMBル単価）（S）70,000円/m³、（P）60,000円/m³、（バンドル単価）（S）67,000円/m³、（P）57,000円/m³（関東）。

・スギの扱い量は少ないが価格は安定している。ヒノキは長雨などの影響により素材不足。よって生産量が増えず価格も上昇。米マツ平角・割物は、大手製材工場の値上げしたことからやや上昇（中部）。

・スギ柱角、桁角は丸太不足で価格は上昇している。その他は需要が弱く、価格は現状維持が良いところ。ヒノキ製材品は九州産の柱・土台が不足していることからか、価格が強くなってきている。米マツ平角、割物ともに需要が弱く現状維持。北洋エゾマツ、アカマツタルキは現状維持（中部）。